

**日本臨床検査医学会 平成 22 年度
第 1 回理事会だより**

日 時：平成 22 年 3 月 27 日(土)12:00~15:00

場 所：学術総合センター2F 会議室 202-203
(東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1-2)

出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，
米山彰子総務理事，玉井誠一会計理事，
村田満庶務理事
矢富 裕，宮地勇人，諏訪部章，登 勉，
前川真人，メ谷直人，渡邊直樹，荏原順一，
岡部英俊，山根誠久 理事
中原一彦，一山 智 監事(17名)
酒井富雄 会計顧問 陪席

欠席者：村上正巳，尾崎由基男，北島 勲，
日野田裕治 理事(4名)

会に先立ち，平成 22 年 3 月 13 日に逝去された評議員の鈴木美登利先生(獨協医大越谷病院，享年 56 歳)の逝去を悼み黙禱が捧げられ，その後，宮澤幸久理事長の挨拶があり，矢富裕理事，渡邊直樹理事を議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部報告の支部例会・総会予定，支部地方会予定，支部役員交代等について，また，九州支部から，2 月 13 日に承認された支部規約が報告された。

なお，東海・北陸支部から利益相反について学会で検討してほしいとの要望があった。

編集委員会から臨床病理の特別総説の依頼に有用であり，共通の情報としても必要と思われるため，支部人事の変更，とくに検査関係の教授，部長，技師長の退任・新任の報告を追加してほしいとの要望があった。

北海道支部報告(渡邊直樹 支部長)

1. 支部総会の予定

第 44 回支部総会

期 日：平成 22 年 10 月 30 日(土)

場 所：北海道大学医学部保健学科

総会長：千葉仁志(北海道大学大学院
保健科学研究所 教授)

東北支部報告(荏原順一 支部長)

1. 支部総会の予定

第 42 回支部総会

期 日：平成 22 年 5 月 15 日(土)

場 所：弘前大学医学部コミュニケーション
センター

総会長：保嶋 実(弘前大学大学院医学研究科
臨床検査医学 教授)

1) 一般演題

2) シンポジウム：

「臨床検査とリスクマネジメント(仮題)」

3) 特別講演：「鉄代謝研究の進歩と鉄関連貧血」

張替秀郎(東北大学大学院医学系研究科
血液・免疫病学分野 教授)

事務局：弘前大学大学院医学研究科

臨床検査医学講座

杉本一博(医学部附属病院検査部)

〒036-8562 青森県弘前市在府町 5

2. 支部例会の予定

第 34 回支部例会

期 日：平成 22 年 10 月 30 日(土)

場 所：コラッセふくしま

例会長：金光 敬二(福島県立医科大学
感染制御・臨床検査医学 教授)

事務局：今福裕司(福島県立医科大学

感染制御・臨床検査医学)

〒960-1295 福島市光が丘 1 番地

TEL: 024-547-1350

FAX: 024-548-6016

関東・甲信越支部報告(宮地勇人 支部長)

1. 支部例会の予定

第 67 回支部例会

期 日：平成 22 年 5 月 29 日(土)

場 所：神奈川県総合医療会館 7 階大講堂

例会長：宮地勇人(東海大学医学部
基盤診療学系臨床検査学)

内 容：総合テーマ「情報型から知識集約型への
検査サービスの転換」

シンポジウム 1：検査の領域間連携と知識集約型

サービス：検体検査編

-
1. 血液総合診断による造血管腫瘍の
新 WHO 分類報告
臓器病態診断学)
松下弘道(東海大学医学部基盤診療学系
臨床検査学)
2. 調理従事者の糞便検査における細菌検査と
遺伝子検査(仮題)
八木哲也(名古屋大学医学部附属病院
中央感染制御部)
- 二本柳伸(北里大学病院臨床検査部)
シンポジウム 2: 検査の領域間連携と知識集約型
サービス: 生理検査編
シンポジウム: 悪性リンパ腫をめぐる検査医学
司会 白石泰三(三重大学)
1. 睡眠時無呼吸症候群における
生理機能検査間の連携
中村栄男(名古屋大学医学研究科臓器病態診断学)
2. 悪性リンパ腫の分子病態
長田尚彦(聖マリアンナ医科大学循環器内科)
瀬戸加大(愛知県がんセンター研究所
遺伝子医療研究部)
2. 動脈硬化指標と生理検査(仮題)
狩野有作(北里大学医学部臨床検査診断学)
3. 超音波検査による悪性リンパ腫の鑑別
所 嘉朗(愛知県がんセンター中央病院
臨床検査部)
- 浅井さとみ(東海大学医学部基盤診療学系
臨床検査学)
4. 入門フローサイトメトリー法
—表面抗原解析の基礎と実際—
岡田恭孝(愛知県がんセンター中央病院
臨床検査部)
- 教育講演 1: Quality Indicator と臨床検査(仮題)
ランチョンセミナー
嶋田元(聖路加国際病院医療情報センター
副センター長)
1. がん分子標的治療と臨床検査
鎌谷直之(スタージェン情報解析研究所 所長)
中村靖司(和歌山県立医科大学臨床検査医学)
2. 微量金属と亜鉛
特別講演: 身体はゲノムの単なる乗り物か?
吉村 一(株式会社シノテスト 研究開発部
一般演題)
- 猪子英俊(東海大学医学部基礎医学系
分子生命科学 教授)
2. 支部総会の予定
事務局: 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65
松本祐之(名古屋大学医学部附属病院検
査部)
- 第 22 回支部総会**
2. 支部総会の予定
第 29 回支部例会
期 日: 平成 22 年 8 月 28 日
場 所: 福井市地域交流プラザ「アオッサ」
例会長: 登 勉(三重大学)
内 容: CKD の最前線(案)
第 21 回日本臨床化学会東海・北陸支部総会
との連合大会
事務局: 山下政宣(福井大学医学部
附属病院検査部)
〒930-1193 福井県吉田郡永平寺町
松岡下合月 23-3
Tel: 0776-61-8464, Fax: 0776-61-8120,
email: myama@u-fukui.ac.jp
- 日時: 平成 22 年 11 月 27 日(土)13:00~
場 所: 杏林大学医学部附属病院
外来棟 10 階第一会議室
総会長: 渡邊 卓(杏林大学医学部
臨床検査医学 教授)
- 東海・北陸支部報告**(登 勉 理事
北島勲支部長欠席のため)
1. 支部総会の予定
第 49 回支部総会(第 320 回日本臨床化学会
東海・北陸支部例会との連合大会)
期 日: 平成 22 年 3 月 14 日(日)
場 所: 名古屋大学大学院医学系研究科
基礎研究棟講義室
総会長: 中村栄男(名古屋大学医学研究科

近畿支部報告(岡部俊英 支部長)

1. 支部総会の予定

第53回支部総会

期 日：平成22年12月11日～12日
場 所：奈良文化会館
総会長：松尾収二(天理よろづ相談所病院
臨床検査部)
内 容：医学検査学会と同時開催
事務局：天理よろづ相談所病院検査部

2. 支部例会の予定

第55回支部例会

期 日：平成22年6月5日
場 所：神戸常盤大学
例会長：片山善章(神戸常盤大学保健科学部
医療検査学科)
事務局：神戸常盤大学

中国・四国支部報告(米山彰子 総務理事

日野田裕治 支部長欠席のため)

1. 支部総会の予定

第55回支部総会

期 日：平成23年2月5日(土)～2月6日(日)
場 所：岡山市
総会長：日野田裕治(山口大学医学部附属病院
検査部長)
事務局：中村準二技師長
(山口大学医学部附属病院検査部)
(jnaka@yamaguchi-u.ac.jp)

2. 支部人事変更について

支部長変更平成22年1月より小出典男教授(岡山大学)から日野田裕治(山口大学)へ

九州支部報告(山根誠久 支部長)

1. 支部総会例会の予定

第55回九州地方会(開催済み)

期 日：平成22年2月13日(土)
場 所：九州大学コラポステーション I
総会長：出原賢治(佐賀大学)

2. 総会決議事項

支部規約の改訂・平成21年度会計決算・平成22年度予算
改訂された規約に基づく支部名誉会員・支部役員等

2. 各種委員会報告**A. 編集委員会**(矢富 裕 委員長)

1) 編集業務は順調に進んでいる。

現在、2009年度の優秀論文賞候補論文の選定作業を行っている。対象は42論文。

2) 新編集委員

萱場広之先生(秋田大学医学部臨床検査医学)にご快諾いただいた。

3) 特別総説の著者の確認

支部長の確認作業をよろしくお願ひします。

4) 投稿規定の改定を予定

この度、「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について—日本臨床検査医学会の見解—」が会告として公表されたことに合わせ、投稿規定の改訂を予定している。

5) 新査読システムの提案(審議事項)

1つの投稿論文に対して、1人の編集委員(主任査読委員)と2人の査読委員が担当する。

評議員は全員、査読委員になりうる。また、評議員の新任、更新時に専門領域を調査する。これと並行して、カテゴリーの再検討と明確化を図る。

座長推薦論文に関しては、推薦座長が査読委員となる

B. 精度管理委員会(宮地勇人 委員長)

1) CAP サーベイについて

CAP サーベイ参加施設

2010年度 CAP サーベイ参加施設：97施設

(新規1施設、中止6施設)

2009年度に比べ、5施設減(2009年度：102施設)

2010年度CAPサーベイプログラム

2009年度プログラム：A, A1～A9, CZ, CRT, K, TM, RT3, RT4

2010年度プログラム：A, A1～A9, CZ, CRT, K, TM, RT3, RT4, OCB(便潜血), U(尿生化学)

2) 項目新プログラム追加

アンケート調査結果

実施期間：2009年11月配布

12月15日締め切り

配布施設数：102施設

回答施設数：30施設(回答率 約30%)

調査目的、事項：新規サービス開始に関する意見、

要望について

(日本語-英語併記版キット取扱説明書, 日本語-英語併記版報告用紙, 日本語版参加者サマリーの提供, E-Lab Solutions オンラインアクセスサポート)

回答について個別に対応済み。

メーカーのコード登録について

登録依頼メーカー : 24 社

登録/確認済みメーカー : 12 社

残り 12 社については, 今後も引き続き登録/確認を要請

評価対象外検査について

日本参加施設のみでピアグループを作り評価可能なシステム構築を CAP 側と継続協議中

2) 『臨床検査室グローバルニュース』会員配布の増数(1-2 冊)について

委員会で監修している「臨床検査室グローバルニュース」を会員に機関誌配布時に 1 冊同封しているがこれを 2 冊にして会員所属の職場閲覧用として利用いただくことの提案があった。これについて検討され, 「臨床検査室グローバルニュース」の同封は, 会員特権であることを周知するため, 入会を促す手紙を同封したうえで送付することで承認された。

C. 標準化委員会(前川真人 担当理事)

1) 治験検査の標準化に関して : 3 月 30 日に第二回 WG 開催予定。

そこで, pre-analytical と post-analytical サブ WG からの中間報告があり, その内容を審議する予定。

2) 学生用基準範囲設定に関して : 学生用基準範囲設定 WG 案を理事会に提示した。

現在, 日本臨床検査医学として今後どのように学生用基準範囲案を確定していくのかについて, 理事会の指示を待っている状況。本件について, 評議員に意見を求め確定していくこととなった。

D. 倫理委員会(村上正巳 担当理事欠席のため,

米山彰子 総務理事)

平成 21 年度第 4 回日本臨床検査医学会理事会において承認された「臨床検査を終了した検体の業務, 教育, 研究のための使用について」を会告として「臨床病理」2 月号に掲載し, 3 月 1 日付けで日本臨床検査医学会ホームページに公表した。

E. 遺伝子委員会(宮地勇人 委員長)

1) ファーマコゲノミクス(PGx)ガイドライン共同策定委員会開催について

目的 : ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針の公開を踏まえて, 治療を含めた臨床利用のためのガイドラインを関連学会共同で策定する。

スコープ : ①日常診療(保険診療, 先進医療), ②臨床研究(探索的, 有用性確認), ③治験, 市販後調査, ④副作用報告(義務)

会議開催

日時 : 2009 年 12 月 26 日(土)13:00~16:00

2010 年 2 月 27 日(土)13:00~16:00

場所 : 東大医科研

出席者 : 鎌谷直之(日本人類遺伝学会遺伝薬理学委員会委員長), 宮地勇人(日本臨床検査医学会遺伝子委員会委員長, 日本臨床検査標準協議会 ; JCCSL), 植田真一郎(日本臨床薬理学会ゲノム委員会委員長), 谷川原祐介(日本 TDM 学会理事長), 堤正好(オプザバー, 個人遺伝情報取扱協議会理事長)

2) 「遺伝学的検査に関するガイドライン(2010)」作成準備委員会について

目的 : 日本医学会高久史磨会長から, 2009 年の 10 月 26 日に日本人類遺伝学会の中村祐輔理事長と福嶋義光倫理審議委員会委員長あてに, ガイドライン作成見直しの依頼あり(遺伝子学的検査関連の技術の進歩と診療での利用上の課題を踏まえて)

会議開催

日時 : 予備会合 2010 年 2 月 6 日(土)13:30-17:00

場所 : 東京フォーラム

出席者 : 関連 12 学会代表 10 名, 日本人類遺伝学会倫理審議委員会 7 名, 日本学術振興会ゲノムテクノロジー第 164 委員会 ELSI 分科会委員 6 名, 有識者 1 名, 日本医学会(高久史磨), 作成準備委員会協力者 6 名 総数 31 名

審議内容

- ・作成委員会の構成メンバーについて
- ・新ガイドラインの位置づけについて
- ・記載すべき項目について
- ・たたき台(案, ver.1.0)の記載内容について
- ・今後の審議の進め方について

日本臨床検査医学会ニュース

F. 医療安全委員会(鵜谷直人 担当理事)

1) 第 57 回日本臨床検査医学学会において、医療安全委員会主催のシンポジウムを開催する。下記のように、「様々な医療現場における臨床検査と医療安全管理」をテーマに 5 名のシンポジストからの発表を予定している。

第 57 回学術集会医療安全委員会主催シンポジウム(案)(約 2 時間)

司会：三井田孝(順天堂大学臨床検査医学講座)

鵜谷直人(国際医療福祉大学 熱海病院検査部)

シンポジウム：様々な医療現場における臨床検査と医療安全管理

在宅での臨床検査と医療安全管理

Self-monitoring of blood glucose (SMBG)の実情と問題点

井上記念病院検査科 山崎家春先生(内諾)

衛生検査所における医療安全管理

臨床検査におけるリスクマネジメントの取り組み

保健科学研究所精度保証室 関 顯先生(内諾)

採血室における医療安全管理

トラブルにどう対処しているか

東京慈恵会医科大学附属柏病院中央検査部

吉田 博先生(内諾)

病理検査における医療安全管理

検体作成から病理検査報告書の伝達まで

金沢医科大学病態診断医学 湊 宏先生(内諾)

生理機能検査、特に超音波検査業務の安全管理

生理検査の特殊性と医療安全

自治医科大学医学部臨床検査医学

谷口信行先生(内諾)

3. 第 56 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(玉井誠一 会計理事)

平成 21 年 8 月 26 日(水)~30 日(土)、札幌コンベンションセンターで開催された第 56 回学術集会(松野一彦会長)の収支決算報告があった。

4. 第 57 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(宮澤幸久 会長)

平成 22 年 9 月 9 日(木)~12 日(日)に東京の京王プラザホテルで、「『臨床検査の価値』その評価・そして未来に向けて」というテーマで開催予定であ

り、現在、演題募集をしていること(4 月 1 日まで)、特別講演などについて報告された。

5. 第 58 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(小出典男 会長)

第 58 回学術集会(小出典男会長)は、平成 23 年 11 月 17 日(木)~20 日(日)に岡山コンベンションセンターで開催予定であることが報告された。

6. 第 59 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(一山 智 会長)

平成 24 年 11 月 29 日(木)~12 月 2 日(日)に国立京都国際会館で開催予定であることが報告された。

7. 名誉会員、功労会員、評議員の推薦について

(米山彰子 総務理事)

本年は、学術集会が例年より 2 ヶ月ほど早いため、7 月中旬締切で各支部より各資格要件を満たす功労会員、評議員の推薦依頼がなされた。なお、評議員候補者の定員は支部正会員の約 10%で、県および所属機関毎で偏りのないように考慮のうえ推薦いただくよう依頼された。

8. 第 60 回(平成 25 年度、2013 年)学術集会長の推薦について(宮澤幸久 理事長)

各支部に 7 月中旬締切で推薦依頼がなされた。なお、順番としては九州か東北が担当していただくのが適当とのことであった。

9. 第 9 回特別例会長の推薦について

(宮澤幸久 理事長)

2011 年 4 月に東京で開催される第 28 回日本医学会総会に合わせて第 9 回特別例会を開催するため、特別例会長の推薦を関東・甲信越支部に依頼がなされた。

10. 臨床検査管理医講習・認定試験について

(高橋伯夫 副理事長)

本年 11 月 28 日(日)11 時~16 時に都内で開催する予定。講師は昨年同様の渡辺清明先生、高木康先生、佐守友博専門医に依頼し、会場は人数により選定することが報告された。

11. 日本専門医制評価・認定機構 専門医制度のヒアリング報告(村田 満 庶務理事)

現在、日本専門医制評価・認定機構の専門医制度整備指針の基準に沿ったものとして臨床検査専門医制度が(H19/11/5～H22/11/4)認定されているが、本年11月で認定期間が終了となるため、3月5日(金)機構事務局で、本会からは宮澤幸久理事長、村田満理事、土屋達行教育委員長が出席しヒアリングが行われた。ヒアリングでは本会の臨床検査専門医卒後研修カリキュラム、卒後研修評価表などが高く評価され、次回認定に対する問題点の指摘は特になかったことが報告された。

12. 関連団体への委員等の推薦について

(米山彰子 総務理事)

平成21年12月以降の各関連団体への委員などの派遣、推薦状況が報告された。

なお、会員名簿掲載時などに各団体への派遣委員についても掲載の要望があったことについて、派遣委員の公開は問題ないため、掲載時期、方法を検討して行うこととなった。

13. 体外診断用医薬品の供給停止予定品目の調査について(宮澤幸久 理事長)

厚生労働省でメーカーから医薬品製造中止の連絡があり医薬品の供給停止をする場合、本年から関連の学会にその検討依頼がされ、製品供給を停止しても問題がないか否かについて検討し、供給停止に意義がある場合は厚生省に理由を示して回答するようになったことが報告された。

14. 各種送金について(支部活動費,専門医試験費用,学術集会補助金,顧問料)(玉井誠一 会計理事)

平成22年度の支部活動費、専門医試験費用、学術集会補助金、顧問等の送金予定について報告された。

15. その他

特になし。

【審議事項】

1. 平成21年度会計収支決算報告・事業報告について(玉井誠一 会計理事)

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、損失処理案、監査報告書が提示され、玉井誠一会計理事から説明があり、中原一彦監事より監査報告があり承認された。

なお、中原一彦監事より、本会の通帳数を少なくすること、これにはペイオフ制度がありそれに対応するには冊数が増えてしまうが、利子は付かないが全額補償されるような預金にするなどの方法を取り、管理面からも冊数が少ないほうがよいのではないかと、また事務局事務員の退職金の積立がなされていないため積立で準備すべきであることの2点について提案があり、これらについてその方向で検討することとなった。

2. 定款の一部改定について(玉井誠一 会計理事)

本会の公告について、現在、官報への掲載方法によることから、原則的には電子公告による公告に変更することが提案され承認された。

3. 中国・四国支部理事の交代について

(宮澤幸久 理事長)

今年の2月13、14日の中国・四国支部総会で、本年1月1日に遡り支部理事が小出典男先生から日野田裕治先生に交代することが決定された報告があり、承認された。

4. 標準化委員会委員の交代、医療安全委員会委員の追加について(米山彰子 総務理事)

標準化委員会から3名の委員交代についてと、医療安全委員会から1名の委員の追加の要望があり、承認された。

5. 11Th ASCPaLM・シンポジストについて

(登 勉 国際担当理事)

2010年10月21～23日にインドネシアで開催予定であり大会事務局から4月1日までに本会からのシンポジスト各1名合計3名の推薦依頼があったことに対して、まず評議員に推薦依頼を行ったが推薦がなかったため、国際委員会からシンポジストとして推薦する方について方向性を示し、それについて同

日本臨床検査医学会ニュース

意され、委員会に一任することで承認された。また、今回の ASCPaLM には現時点一般演題の募集がなされていないため、国際委員会から大会事務局に確認していただくこととなった。

6. 評議員再任未提出者について(平成 22 年 1 月 1 日付)(米山彰子 総務理事)

数回、文書、メールで申請依頼をしたにもかかわらず、東北支部の長井俊彦先生(福島医科大)、関東・甲信越支部の田口和三先生(昭和薬大が丘病院)から評議員再任の申請書の提出がないため、支部から評議員の継続についての確認をしていただくこととなった。もし、申請がされない場合は評議員の再任は認められない場合もあることが確認された。

7. その他(米山彰子 総務理事)

次回以降の理事会日程は、平成 22 年度 第 2 回 : 6 月 12 日(土)、第 3 回 : 8 月 7 日(土)、第 4 回 : 11 月 13 日(土)正午からの予定で開催される旨報告されたが、6 月と 8 月は関連する会議などで出席できない理事が多いため、第 2 回理事会は 6 月 13 日(日)、第 3 回理事会は 8 月 8 日(日)に変更することとなった。

閉会

高橋伯夫副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

日本臨床検査医学会 平成 21 年度
に係る定時社員総会 だより

日 時 : 平成 22 年 3 月 27 日(土) 15 : 00 ~ 15 : 45

場 所 : 学術総合センター2F 中会議室 3~4
東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号
(101-0052) TEL : 03-4212-6321

出 席 : 社員(評議員)25 名、名誉会員 3 名、
功労会員 2 名

委任状 : 167 通

宮澤幸久理事長が、議長となり、定時社員総会は、社員出席者数と委任状数が過半数を越えるため、当会は成立されることが報告され、議事が進められた。

会議の目的事項

決議事項

第 1 号議案 計算書類承認の件

(玉井誠一 会計理事)

当議案について、事業報告書、貸借対照表、損益計算書、損失処理案、監査報告書が提示され、玉井誠一会計理事、より説明がなされた。事業報告書、貸借対照表、監査報告書の一部の文言について訂正すべき箇所の指摘があった。中原一彦事より監査報告があり、指摘事項を訂正することを条件に承認された。(事業報告書、計算書類は後頁に掲載)

第 2 号議案 常任理事・理事の選任・退任の件

(宮澤幸久 理事長)

昨年の学術集会時の臨時社員総会(2009 年 8 月 27 日)で承認されていない常任理事の選任・退任、理事(支部理事)の選任・退任について報告がされ、常任理事 1 名 : 村田満先生、理事(支部理事)3 名 : 渡邊直樹先生、尾崎由基男先生、日野田裕治先生について承認された。

なお、臨時社員総会(2009 年 8 月 27 日)で承認されている理事、監事は、次の通りである。

理事(選挙理事) : 村上正巳先生、メ谷直人先生、前川真人先生、宮地勇人先生

理事(支部理事) : 北島勲先生、岡部英俊先生

監事 : 一山智先生

第 3 号議案 定款変更の件(玉井誠一 会計理事)

本会の公告の方法(定款 7 条)について、下記の通り、現在、官報への掲載方法のみによることから、原則として電子公告による公告とし、これがない場合は官報への掲載によると変更することが提案され承認された。

【現行】

(公告の方法)

第 7 条 本法人の公告は、官報に掲載してする。

【改訂案】

(公告の方法)

第 7 条 本法人の公告は、電子公告による。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、官報に掲載する方法による。

<第1号議案>

計算書類の承認

事業報告書

平成21年1月1日から平成21年12月31日まで

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

1) 社会公共性への取組み

臨床検査医学会は昨年一般社団法人へ移行し、積極的に社会公共性を意識した活動を展開いたしております。その活動の一環として、本年9月には包括医療の進む医療現場で、適正で、効率的、効果的な臨床検査の利用の指標となることを目的として、「臨床検査のガイドライン JSLM 2009」を発刊いたしました。学術集会等での臨床検査の社会的役割について啓発活動を継続するとともに、厚生労働省等の各種委員会で理事長をはじめとする社員が、各種の調査結果に基づいて臨床検査の臨床的価値、社会的有用性について意見を述べ、日本の医療の質向上に寄与しております。さらに、本学会は、日本専門医制評価・認定機構から認定された基本領域学会のひとつとして、社会から求められている日本の専門医制度の確立に向け、臨床検査専門医卒後研修評価法の作成、公表や、認定試験の改善を行いました。

2) 学会活動

学会の事業の一環として、①平成21年8月26日～29日に北海道札幌市で第56回学術集会を開催、②雑誌「臨床病理」の年12回刊行、③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」「臨床検査管理医」試験実施など、幅広い活動を展開しました。これらの活動による当期経常増減額は8,627,016円、当期正味財産増減額は、7,998,518円となっております。

2 対処すべき課題

1) 学会活動の活性化

社会の発展を支える人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発を支える臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学会賞や、学術推進プロジェクトによる社員の研究活動の推進とともに、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成も急務であり、臨床検査関連の国際学会研究発表については来年度から補助金を支給することといたしました。

日本臨床検査医学会ニュース

2) 社会の求める臨床検査専門医・臨床検査管理医養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必要と考えています。臨床検査専門医養成については、「臨床検査専門医卒後研修カリキュラム」を平成19年に発刊しましたが、さらにより専門医養成教育カリキュラムに改定すべく、教育委員会を中心に検討しております。臨床検査管理医については、教育カリキュラムの作成と公表、認定に関わる試験方法の改善について検討しております。

3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上

医療倫理の観点から、本学会では、平成14年に「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を倫理委員会が中心となり作成、公表しましたが、「臨床研究に関する指針」が平成20年7月に全面改正されたこと等を考慮し、平成14年の学会見解を見直し、臨床検査に関する研究についての倫理指針を作成、公表し、臨床検査に携わる全ての人々に周知徹底させる必要があると考えています。本年度は、倫理委員会が中心となって、新たな「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を作成いたしました（平成22年2月に雑誌「臨床病理」上で公表）。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

4 事業成績及び財産の状況の推移

(単位:円)

区分	平成18年度 第1期 18.2.2~18.12.31	平成19年度 第2期 19.1.1~19.12.31	平成20年度 第3期 20.1.1~20.12.31	平成21年度 第4期 21.1.1~21.12.31
1 会費収入	38,423,475	40,205,000	38,811,475	39,866,000
2 事業収入	34,890,090	36,205,053	30,933,441	41,239,786
3 学術集会収入	12,000,000	12,000,000	12,000,000	10,000,000
4 補助金収入	200,000	0	0	0
5 寄付金収入	2,000,000	1,000,000	1,500,000	1,000,000
6 事業費	69,596,370	62,600,009	62,688,622	60,805,989
7 管理費	19,796,259	23,306,641	19,542,277	22,672,781
8 当期経常増減額	△ 1,879,064	3,503,403	1,014,117	8,627,016
9 税引前当期利益	△ 1,669,900	3,696,740	88,945	8,074,049
10 当期正味財産増減額	△ 1,728,200	3,021,782	△ 22,904	7,998,518
11 資産合計	139,316,575	151,499,934	167,495,547	175,592,196
12 純資産合計	135,236,212	138,257,994	148,270,678	156,269,196
13 基金	136,964,412	136,964,412	147,000,000	147,000,000

II 法人の概況

1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定に関すること
- ④ 臨床検査技術士、緊急臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定に関すること
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（平成21年12月31日現在）

276名

3 役員（平成21年12月31日現在）

理事	宮澤幸久	（理事長・代表理事）
	高橋伯夫	（副理事長・代表理事）
	高木 康	
	玉井誠一	
	米山彰子	
	矢富 裕	
	熊谷俊一	
	諏訪部章	
	福武勝幸	
	松野一彦	
	登 勉	
	石 和久	
	村田 満	
	荏原順一	
	宮地勇人	
	三家登喜夫	
	小出典男	
	山根誠久	
監事	戸谷誠之	
	中原一彦	

4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実

記載すべき事項は、ありません。

日本臨床検査医学会ニュース
貸借対照表

平成21年12月31日現在

一般社団法人日本臨床検査医学会

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
I 流動資産	171,537,043	I 流動負債	19,323,000
現預金	171,429,438	未払消費税	51,900
未収会費	91,000	未払法人税	70,000
仮払金	16,605	未払費用	1,808,360
II 固定資産		前受金	13,392,000
1. その他固定資産	4,055,153	預り金	266,162
(1)有形固定資産	160,193	仮受金	3,734,578
建物附属設備	263,550	負債合計	19,323,000
△減価償却累計額	△ 103,357	純資産の部	
(2)無形固定資産	305,760	I 基金	147,000,000
電話加入権	305,760	II 一般正味財産	9,269,196
(3)投資その他の資産	3,589,200	(当期正味財産増減額)	(7,998,518)
差入保証金	3,589,200	純資産合計	156,269,196
資産合計	175,592,196	負債・純資産合計	175,592,196

正味財産増減計算書

平成21年1月1日から平成21年12月31日まで

一般社団法人日本臨床検査医学会

(単位：円)

科目	金額	金額
I 経常増減の部		
(1) 経常収益		
1. 会費収入	39,866,000	
2. 事業収入	41,239,786	
3. 学術集会収入	10,000,000	
4. 寄付金収入	1,000,000	92,105,786
(2) 経常費用		
1. 事業費	60,805,989	
2. 管理費	22,672,781	83,478,770
当期経常増減額		8,627,016
II 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
1. 受取利息	110,739	
2. 雑収入	760,479	871,218
(2) 経常外費用		
1. 雑損失		1,424,185
当期経常外増減額		8,074,049
税引前当期純利益(損失)		8,074,049
法人税、住民税及び事業税		75,531
当期正味財産増減額		7,998,518
正味財産期首残高		1,270,678
正味財産期末残高		9,269,196

監査報告書

私達は、平成21年1月1日から平成21年12月31日までの第4期事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

監事は、社員総会その他重要な会議に出席するほか、理事等から事業の遂行の状況について報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主たる事務所等において業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び附属明細書につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表及び損益計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表及び正味財産増減計算書は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 附属明細書は、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は、認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

平成22年 3 月 17日

一般社団法人日本臨床検査医学会

監事 中原 一彦 ㊟

監事 一山 智 ㊟